

社会科における授業づくりのポイント

1 社会科における主眼について

社会科の主眼は、二つの観点から書きます。一つは、主に内容【知識及び技能】です。二つは、主にその内容を捉えるための視点や活動【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○主眼の作り方の例

主眼 1 □□が～して、■■する(仕組み)ことにより、～～していること(働き)を捉えることができるようにする。
 2 ○○において～(時間、空間、相互関係)に着目し、(比較、関連、総合)する活動を通して、(内容)を話し合うことができるようにする。

【第5学年単元「米づくりのさかんな地域(5/11時)」の主眼1の例】

(1) 解説書を読んで内容を焦点化する

(2) 「我が国の農業における食料生産」(小学校学習指導要領 解説77ページ)から食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。
 ⇒生産性、品質、輸送、販売の仕組みと消費地に届ける働き

【焦点化された主眼】
 食料を生産する人々は、生産性や品質を高め、輸送や販売を工夫することで、消費地に良質な食料を届けていることを捉えることができるようにする。

(2) 教科書の教材を参考に内容を具体化する

教科書(教育出版)の教材配列から

西口時	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
①食料生産の概要	米の産地の広がり	産地の自然条件	学習計画予想		品質を高める工夫	輸送の工夫	人々の協力関係		食料を確保する役割	食料を確保する役割	食料を確保する役割
②人々の工夫や努力			視点方法	生産の工程	品質を高める工夫	輸送の工夫	人々の協力関係	生産性や品質を高める工夫		人々の協力関係	食料生産を支えている

⇒本時場面は、品質を高める工夫を捉えることが必要である。

【具体化された主眼】
 食料を生産する人々は、品質を高める工夫をすることで、消費地に良質な食料を届けていることを捉えることができるようにする。
 (品質を高める工夫を捉える主眼)

(3) 教材となる社会的事象から内容を明確化する

教材となる人(南魚沼市 三輪さんたち)の品質を高める工夫から

【三輪さんの工夫】
 ①水量調節の徹底
 ②玄米黒酢の散布
【他農家の工夫】
 ③合鴨、たい肥

減農薬
【安全】
有機肥料
【おいしさ】

安全で
おいしい
食料提供

【消費者アンケート】
 Q:食料に求めるものはどんなことか。
 A:安全性とおいしさ(農林水産省調査)

【明確化された主眼】
 三輪さんたちが、水量調節や玄米黒酢の散布、合鴨やたい肥を使うことで、除草剤や農薬の使用量を減らし、手間をかけてまで、消費者へ向けて安全でおいしい米をつくらせていることを捉えることができるようにする。

2 社会科における単元指導計画について

社会科の単元指導計画では、社会的事象について単元を通して追究する【学習問題】を見いだす導入の段階、学習問題について調べ、解決していく展開段階、解決したことを基に、社会への関わりを考える終末の段階の三つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例(第5学年単元「米づくりのさかんな地域」)
導入	単元の社会的事象に出会い、自分の既知の知識とのズレから、単元をつらぬく学習問題と学習計画を立てる。	自分達の食べている食事を振り返り、食材で最も使われている米の産地を調べることで、米づくりのさかんな新潟県の農家の工夫や努力を調べる学習問題を立てる。
展開	調べたことを基に自分の考えをつくり、友達の考えと比較・関連付けをすることで、学習問題を解決する。	三輪さん達が、機械化、耕地整理による作業の効率化、品種改良、減農薬製法による品質の向上により、生産性を上げることで日本の食料生産を支えていることを捉える。
終末	学習問題を解決してわかったことを基に、社会への関わり方について、自分なりの考えをもつ。	農業人口の減少、米の消費量の減少の問題について、どのような対策が必要なのか、学習したことから自分の考えをつくる。

3 社会科における一単位時間の学習過程について（単元の展開段階後半において）

社会科の学習過程では、本時課題に対する自分の考えを調べたことを根拠に明確にし、互いの考えの違いや共通点を関連付けて、本時課題を解決する問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の学習過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICTの活用
導入	<p>1 学習問題や計画を振り返り、本時資料から分かることと比較し、本時学習のめあてを話し合う。</p> <p>前の時間は〇〇さんが〇〇（資料等から）●●なのになっていると分かったな。〇〇していると分かるな。</p> <p>〇〇さん（たち）は、どのように（なぜ）〇〇しているのだろう。</p>	<p>○本時のめあてを話し合うことができるように、学習者用端末に保存している学習計画と本時提示した資料から分かることを比較してズレを明確にする場を設定する。</p>
展開	<p>2 課題解決の見通しを話し合い、調べたことから自分の考えをつくり、話し合って考えをまとめる。</p> <p>(1) 予想を基に、調べる視点や方法について見通しを話し合う。</p> <p>視点：空間、時間、相互関係に基づき具体化する。 方法：比較、関連、総合する思考方法を具体化する。</p> <p>(2) 分かった事実を基に自分の考えをつくる。</p> <p>したこと（事実） _____ したこと（事実） _____</p> <p>人々の工夫、地理的な特色（事実の関連）</p> <p>(3) 課題について互いの考えを比較、関連、総合して自分の考えをつくり直し、課題を解決する。</p> <p>事実 _____ 事実 _____</p> <p>仕組み 工夫・特色 地域の人々 国民生活 働き</p> <p>〇〇さんが、〇〇すること（仕組み）で、〇〇ができています（働き）。</p>	<p>○視点と方法の見通しを話し合うことができるように、学習者用端末で保存した前時までの視点と方法が使えるか検討する場を設定する。</p> <p>○考えをつくる根拠となる事実を見いだすことができるように、関連する事実を位置付けた資料を準備する。</p> <p>○見いだした仕組みや働きについて自分の考えをつくり直すことができるように、根拠を提示しながら説明することで考えを共有して比較、関連、総合して共通点としてキーワード化する場を設定する。</p>
終末	<p>3 本時学習で分かったことを振り返り、未解決の問いを明らかにして次時学習への見通しをもつ。</p> <p>●●については分かった。次は、▲▲について、調べていきたい。</p>	<p>○次時学習への見通しをもつことができるように、学習者用端末に保存している学習計画を振り返る場を設定する。</p>

4 社会科における ICT の活用について

社会科では、「自分の考え（ノート）」、「資料」、「板書」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を、以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…学習履歴を基に、調べる視点や方法、まとめ方を振り返ることができるようにする。
- 共有機能…自他の考えを比べ、違いや共通点から考えをつくり直すことができるようにする。
- 提示機能…自分の資料やノートを提示し、根拠を示して考えを説明することができるようにする。

○ICT の活用の具体例

保存機能	共有機能	提示機能
<p>導入段階で単元の学習問題や学習計画を振り返り、本時学習のめあてを話し合うことができるようにする。</p> 	<p>展開前段で友達の考えと比べることで、自分の考えを付加・修正・強化することができるようにする。</p> 	<p>展開の後段で自分の考えを、根拠となる資料を示しながら、説明することができるようにする。</p> 